

第 21 回日本消化管 CT 技術学会 (GICT) 総会・学術集会に参加して

札幌医科大学附属病院 大橋芳也

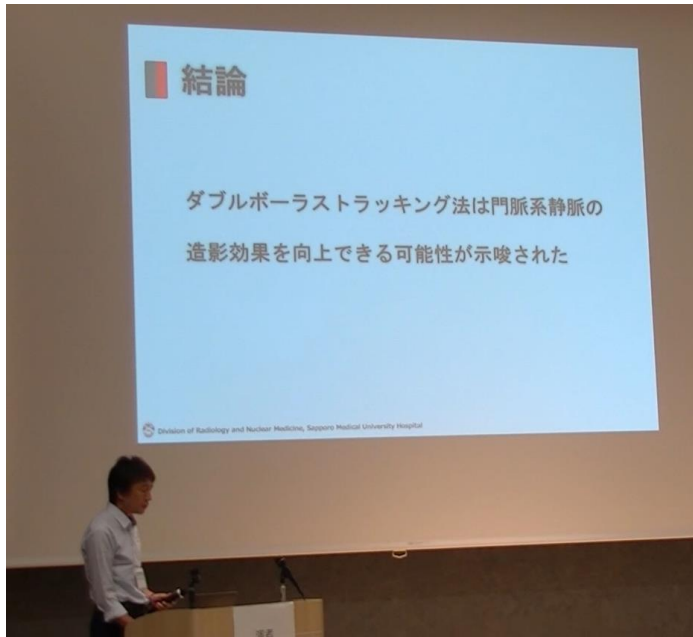
皆さんこんにちは。残暑厳しい日が続いていますが皆さまいかがお過ごしでしょうか？ さて、2023 年 7 月 15 日に国立がん研究センター築地キャンパスにて開催された第 21 回日本消化管 CT 技術学会の参加報告をさせていただきます。今年は、群馬県立県民健康科学大学の小倉敏裕大会長指揮の下、久しぶりの現地開催のみの対面形式の学会となりました。大会のテーマは New CT Colonography で、そのタイトル通り全く新しい CTC を提案するという趣旨の斬新な内容が多かったように思います。AI 技術が大腸 CT に活用し、病変の検出能を向上させるような技術も紹介され、近い将来ソフトウェアとしてワークステーションに実装される日が待ち遠しく感じました。金沢大学の市川先生が、大腸仮想内視鏡画像のための高速かつ写実的なレンダリング技術の開発という内容でご講演されました。写実的なレンダリング技術は、光源をあらゆる角度からあてることで従来のボリュームレン

ダリングよりもリアリティのある画像になっていました。仮想内視鏡像においては、腸管表面の見え方が実際の内視鏡画像に限りなく近く、病変検出にも有効な気がしました。画像生成も非常にスピーディーでストレスがなく、今後、臨床現場でスタンダードな画像表示法になっていくのだろうと感じました。

大腸がんで亡くなる男性は1年間で2万7000人、女性で2万4000人あまりだそうです。CTCは新しい時代に入り、検査法や画像解析、はたまた新しい画像表示法が大腸がん医療に貢献し、大腸癌で亡くなる方が減少することを願いつつ今後の動向に注目です。



小倉敏裕先生の大会長挨拶



発表風景